

優良住宅部品認定基準「墜落防止手すり」他 12 品目を改正しました

2021年4月1日

一般財団法人ベターリビング

一般財団法人ベターリビングは、優良住宅部品認定基準（以下「BL 認定基準」という。）「墜落防止手すり」他 12 品目の改正を行い、2021 年 4 月 1 日付で公表・施行しました。

①「墜落防止手すり」においては、無償修理保証期間を従来の 5 年以上から最長となる 10 年へ拡大する改正を行いました。②「歩行・動作補助手すり」においては、関連する JIS 規格と値の相違を整合させる改正を行いました。

③「玄関ドア」、④「改修用玄関ドア」においては、構成部品として通気装置を追加し、関連する要求性能を追加する改正を行いました。⑤「内装ドア」においては、扉の耐衝撃性試験の要求性能等を明確にする改正を行いました。

⑥「洗濯機用防水パン」、⑦「洗濯機用サイホン排出管（可変式洗濯機設置台）」においては、洗濯機大型化などの市場動向に合わせた試験方法の見直しや表現の修正等を行いました。

⑧「ハイブリッド給湯・暖房システム」においては、貯湯タンクの保温性試験の引用先を見直し、⑨「家庭用燃料電池コージェネレーションシステム」においては、試験方法書の誤記修正を行いました。

⑩「テレビ共同受信機器（同軸伝送）」においては、新 4K8K 衛星放送に対応してない機種等を廃止しました。⑪「面格子」、⑫「改修用サッシ」、⑬「給水ポンプシステム」においては、JIS 規格改正に伴う改正を行いました。

今回の改正に合わせ、タブレット・スマートフォン等で閲覧可能なマルチデバイス対応の電子ブック『優良住宅部品（BL 部品）ガイドブック』も更新しましたので、ぜひご活用ください。 (<https://www.cbl.or.jp/blsys/guide/index.html>)



1 墜落防止手すり

1) 無償修理保証期間の拡大

墜落防止手すりの製造に係る技術の進化等により製品の品質や性能は向上していることから、住宅ストックの活用に対応し、長期的に使用していただくため、従来の無償修理保証期間 5 年以上を 10 年に延長しました。

2) JIS 規格改正に伴う基準改正

最新版の引用 JIS 規格（JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）等）に更新しました。

2 歩行・動作補助手すり

1) JIS T 9282:2018(福祉用具-固定形手すり)との整合

2018年、福祉用具としての固定形手すりがJIS規格として制定されました。BL認定基準では鉛直荷重の場合は1,150Nを要求していますが、JISの固定型手すりでは1,200Nを要求するなど、数値の表現に若干の差が生じていました。このため、BL認定基準の荷重値を1,200Nにするなどの表現の整合を行いました。

なお、BL認定基準の歩行・動作補助手すりは、施工時の下地材の影響を考慮しており、JISの固定型手すりとは条件が異なることから、JISの試験方法の一部は導入を見送りました。

3 玄関ドア、改修用玄関ドア

1) 構成部品(通気装置)の追加

玄関ドアを閉じたままでも通気ができ、防犯やプライバシーに配慮することができる通気装置を選択構成部品に追加し、操作性、防犯上の安全性、防火性及び耐久性の要求性能を追加しました。

2) JIS規格改正に伴う基準改正

最新版の引用JIS規格(JIS G 3101(一般構造用圧延鋼材))に更新しました。

4 内装ドア

1) 扉の耐衝撃性試験の要求性能等の明確化

試験体の衝撃位置に関して表現を追加するとともに、扉の耐衝撃性(開戸・引戸・折戸)に関する耐衝撃性試験(砂袋振り子式)の要求性能の表現を明確にしました。

2) 引用規格等の更新

材料において例示している引用規格を更新しました。

5 洗濯機用防水パン、洗濯機用サイホン排出管(可変式洗濯機設置台)

1) 試験方法の見直し(①及び⑤は「洗濯機用防水パン」のみ)

- ① 排水性試験で使用する洗濯機の容量を5kgタイプから12kgタイプに変更し、試験条件を追加しました。
- ② 曲げ強さ、曲げ弾性率及び表面硬さについては、試験を廃止し、製品の品質基準値を示すこととしました。

- ③ 耐汚染性試験、耐温水性試験、耐酸性試験、耐アルカリ性試験で使用する試験体の数を変更しました。
- ④ 耐酸性、耐アルカリ性の試験実施後の表面硬さの測定を廃止しました。
- ⑤ 洗濯機の振動に対する耐摩耗性試験を廃止しました。

2) 表現の修正等（「洗濯機用防水パン」のみ）

- ① 材料に関する要求性能を表にまとめ、表現を他の住宅部品と整合しました。また、接続できる排水管に VU 管を追加しました。
- ② 従来、別紙としていた排水トラップの構造等を基準内に記載しました。

6 ハイブリッド給湯・暖房システム

1) 貯湯タンクの引用試験の見直し

貯湯タンクの保温性試験は、JIS C9219（貯湯式電気温水器）の試験を引用していましたが、貯湯タンク容量が乖離していたため、より実態に近い形で試験を行えるよう、貯湯タンクが同等サイズである「家庭用燃料電池ジェネレーションシステム [BLT FC-01 貯湯タンクの断熱性能試験]」を引用することにしました。

7 家庭用燃料電池コージェネレーションシステム

1) 試験方法書の誤記修正

[BLT FC-01 貯湯タンクの断熱性能試験] の数式の誤記を修正しました。

8 テレビ共同受信機器（同軸伝送）

1) 衛星放送用受信設備 2.6GHz 仕様の型式等の廃止

「新 4K8K 衛星放送」に対応した機種が一般的になったため、3.2GHz 仕様で代替が可能な 2.6GHz 仕様の型式および FM 狭帯域用アンテナの型式を廃止しました。

9 面格子、改修用サッシ、給水ポンプシステム

1) JIS 規格改正に伴う基準改正

最新版の引用 JIS 規格（JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）、JIS G 3455（高圧配管用炭素鋼管））に更新しました。（JIS G 3455 は面格子のみ）

以上